

晴耕雨読

令和2年2月発行
愛知県立衣台高等学校
図書館

読む本が決まらないみなさん、読みたい本が決まっていなくても一度図書館に足を運んでみてはいかがでしょうか。ふとしたことから、気に入った作者や作品に出会えるかもしれません。



『愛、深き淵より。』 (著者：星野 富弘)

校長 土屋 秀弘

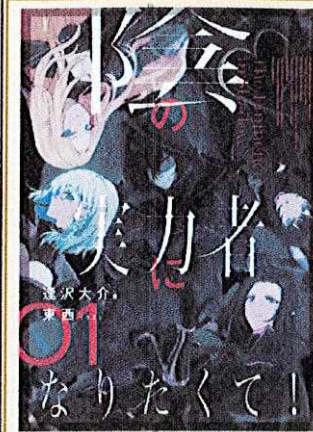
私がこの本を最初に読んだのは、大学を卒業する直前でした。卒業後、体育の教師としてスタートする予定でしたが、卒業式直前に交通事故に遭い、救急車で運ばれました。入院するほどではありませんでしたが、しばらく通院することになりました。その時、お世話になった先輩からこの本をいた

だきました。著者である星野富弘さんは、大学卒業後、体育教師として赴任しましたが、そのわずか2ヶ月後に、クラブ活動でマット運動の指導中に誤って墜落し、頸髄損傷を負い、以来手足の自由を失ってしまいました。9年間の病院生活の後、不治のまま退院し、手足の運動機能は回復しませんでした。口に筆をくわえてすばらしい詩画を書くようになりました。体育の教師としてスタートする前に、交通事故でけがをしていた私にとっては、色々考えさせられる一冊の本になりました。

『海の底』 (著者：有川 浩)

3年3組

この作者の本の魅力は、現実ではありえないはずの壮大な物語を現実には引っ張り込んでくることだと思います。まるで本当にあったことのような臨場感があります。そして何より登場人物たちの生々しい感情の表現！読んでみなければ体感できない面白さです。



『陰の実力者になりたくて!』 (著者：逢沢 大介)

2年1組

「陰の実力者」に憧れる主人公が、ある日事故で命を失い異世界に転生してしまう。前世で取得した技術を使い、表の顔は人畜無害な「モブ(ごく普通の目立たないキャラクター)」、裏の顔は「陰の実力者」として活躍します。強烈な力、個性を持つ主人公が、全く反対のモブになりきるところが見どころです。



『高校古文 こういう話』 (著者：柴田 純子)

2年4組

高校1年最初の古典「児(ちご)のそら寝」。あなたは登場人物や時代を覚えていますか?どんな教訓を伝えるものだったのだろうか。そもそもどういう話だっけ?そう思っている人も少なくないはず。この本は、高校の古典、漢文が漫画で描かれていて、予習やおさらいに最適です。ほかにも、その時代の暮らしや文化が補足で説明されているなど、楽しく読むための工夫がなされていて、手軽に古典の世界を知ることができる一冊です。



『ひとつむぎの手』 (著者：知念 実希人)

2年4組

大学病院で過酷な勤務に耐えている平良祐介は、医局の最高権力者にある仕事を任される。成功すれば念願の心臓外科医への道が開けるが、失敗すれば……。注目の医療ミステリー作家、知念実希人が送るヒューマンドラマ。たまたま衣台高校の図書館で出会った先輩が薦めてくれたことがきっかけで、この作家のファンになりました。どの作品も後半の盛り上がり素晴らしく、新しい本が図書館に入る度に読んでいます。知念さんは医師なので、実際の病院の様子や働いている人々の姿がわかることも魅力です。



『ようこそ実力至上主義の教室へ』 (著者：衣笠 彰梧)

2年5組

この本は、学業、人間性、身体能力等の力量でランク付けされる仕組みになっている学校で、主人公の綾小路が、劣る部分が多いと認定された最下位クラスメンバーと共に、最優秀クラスを目指す学園黙示録です。予想外な展開が面白くアニメにもなった人気作です。ぜひ手に取って読んでください。